

日本感染症学会 COI 開示

脇本 寛子

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある企業などはありません。

外来多職種職員におけるB型肝炎ウイルスに 対する免疫獲得状況とその課題

脇本寛子¹⁾, 矢野久子¹⁾, 堀田法子¹⁾, 前田ひとみ²⁾, 鈴木幹三³⁾

1) 名古屋市立大学看護学部

2) 熊本大学大学院生命科学研究部

3) 名古屋市千種保健所

科学研究費基盤(C)24593225

「外来機能の強化による医療関連感染予防のための連携システム開発と評価」にて実施

背景

- 病院の外来診療に従事する者は、感染症の確定診断前の患者と接触する機会が多い。
- **CDC(2007)**
麻疹, 風疹, 水痘, 流行性耳下腺炎, B型肝炎, インフルエンザは**ワクチンで予防可能な疾患 (vaccine preventable diseases: VPD)**であり, 医療に従事する感受性者へのワクチン接種を推奨。
- **日本環境感染学会(2009)**
麻疹, 風疹, 水痘, 流行性耳下腺炎の免疫を獲得した上で勤務することを原則。
- B型肝炎ワクチンは, 血液・体液に接する可能性のある場合は, ワクチン接種を推奨。

目 的

多職種で構成される外来職員における
B型肝炎ウイルスに対する免疫獲得状況と
課題を明らかにすること。

対象

- ・2009年9月～2012年1月
- ・2施設(同一医療圏, 感染症内科の標榜なし)
- ・**外来職員 324人**
 - 医療職 254人: 医師57人, 看護師114人, 薬剤師25人,
臨床検査技師36人, 診療放射線技師22人
 - 非医療職 70人: 受付職員50人, 清掃職員20人
- ・**倫理的配慮**
 - ・名古屋市立大学看護学部研究倫理委員会の承認,
A病院部長会, B病院施設長の承認
 - ・対象者に口頭/文書で説明し, 文書で同意を得て実施.
 - ・結果は, 厳封して対象者へ返送.

方法

血清抗体検査

- ・抗HBs抗体を蛍光酵素免疫測定法でVIDASにより測定
- ・判定基準

判定	HBs抗体 (mIU/mL)
免疫未獲得者	陰性 測定値 < 8
	判定保留 $8 \leq$ 測定値 \leq 12
免疫獲得者	陽性 測定値 > 12

質問紙調査

属性, 抗体検査歴, ワクチン接種歴, ワクチン接種に関する考え

解析

抗体検査と質問紙調査の結果を照合しSPSS.ver19を用いて解析

結果

- 性別 男性 96人(29.6%)
女性 228人(70.4%)
- 年齡 38.8±12.1歲(29-75)
- 職歷 10.0±9.9年(0.1-42.0)

[平均±標準偏差(範圍)]

職種別の外来業務内容

職種	業務内容(上位2項目)	
医師	診察 56人(98.2%)	処置検査 35人(61.4%)
看護師	診察介助 104人(91.2%)	処置検査 101人(88.6%)
医療 薬剤師	薬払い出し 20人(80.0%)	服薬指導 15人(60.0%)
臨床検査技師	採血 24人(66.7%)	心電図検査 9人(25.0%)
診療放射線技師	X-p検査 14人(63.6%)	造影検査 7人(31.8%)
非 医 療 職	受付職員	受付医事窓口業務 50人(100%)
	清掃職員	トイレ清掃 15人(75.0%) 診察室清掃 14人(70.0%)

(複数回答あり)

B型肝炎ウイルスに対する免疫獲得状況

項目	医療職 n=254	非医療職 n=70	P値*
	人数 (%)	人数 (%)	
免疫獲得者	232 (91.3)	11 (15.7)	P<0.01
抗体検査歴	253 (99.6)	18 (25.7)	P<0.01

項目	医療職 n=169	非医療 n=11	P値
	人数 (%)	人数 (%)	
ワクチン接種歴	164 (97.0)	2 (18.2)	P<0.01

*Chi-squared test 医療職と非医療職の比較

B型肝炎ウイルスに対する抗体が 陰性でもワクチン接種を受けない理由

	医療職 n=4	非医療職 n=8	合計 n=12
血液に接触しない	1	2	3
手続きが不明	1	2	3
抗原陽性	1	0	1
費用負担がある	1	0	1
特に理由なし	1	0	1
副反応が心配	0	1	1
患者と接触しない	0	1	1

(不明を除く)

感染予防に関する知識

設問内容	医療職 n=254	非医療職 n=70	P値*
	人数 (%)	人数 (%)	
標準予防策を聞いたことがある	186 (73.2)	30 (42.9)	P<0.01
感染経路についての正答			
インフルエンザ	228 (88.2)	48 (68.6)	P<0.01
B型肝炎	202 (79.5)	37 (52.9)	P<0.01
流行性耳下腺炎	180 (70.9)	35 (50.0)	P<0.01
麻疹	173 (68.1)	34 (48.6)	P<0.01
風疹	168 (66.1)	36 (51.4)	P<0.05
結核	168 (66.1)	34 (48.6)	P<0.01
水痘	133 (52.4)	26 (37.1)	P<0.05

*Chi-squared test 医療職と非医療職の比較

外来患者と接する時に「実施できている」と回答した割合

感染予防行動	医療職 n=254		非医療職 n=70		P値*
	人数	(%)	人数	(%)	
感染症情報の事前確認	35	(13.8)	13	(18.6)	P<0.01
血液に触れる時に手袋	159	(62.6)	20	(28.6)	P<0.01
血液に触れた後に 手指衛生	205	(80.7)	27	(38.6)	P<0.01

*Chi-squared test 医療職と非医療職の比較

まとめ

- ・B型肝炎ウイルスに対する免疫獲得者は、医療職91.3%,非医療職15.7%であった.
- ・B型肝炎ワクチン接種者は、医療職97.0%,非医療職18.2%であった.
- ・ワクチンプログラムの遂行に向けた今後の課題は、非医療者に対してもワクチン接種を考慮すること、ワクチン接種に関して個別に丁寧に説明することが必要である.
- ・標準予防策など感染予防行動に関する教育の強化が必要である.